

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,27 2018年 夏号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い⑳「高らかに宣言しよう！恐竜は鳥も同然である！」と！
突撃！鳥海イヌワシみらい館⑨ 昆虫写真家 高嶋清明氏
ワッシーくん、東京ドームに立つ！
蜂蜜の森から⑤「セグロアシナガバチ移住成功！」
「アカエリヒレアシシギ」酒田市 撮影：佐々木真一



バードウォッチングへの誘い⑳(夏休み企画Ver)



シンチョウ

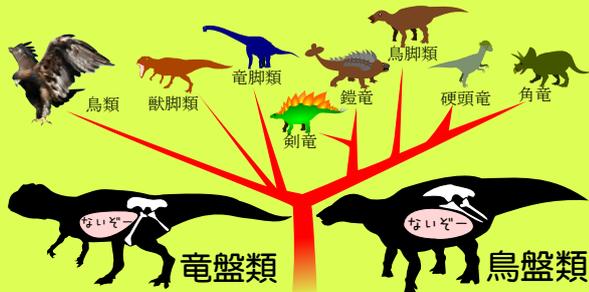
高らかに宣言しよう！ 「恐竜は鳥も同然である！」と！

鳥の祖先は恐竜であるという仮説が提唱され、近年発見された化石から羽毛が見つかったことで恐竜から鳥への進化は定説となりました。「Raptor」は猛禽類と恐竜を表すラテン語であることにも親近感を感じますね。私たちは鳥を見ていますが、実は恐竜を見ていることに等しいということです。全国に多数いるであろう恐竜キッズが、鳥好きに覚醒する日もそう遠くはないということでしょう。(参考資料:「鳥類学者 無謀にも 恐竜を語る」川上和人)



タルボサウルス(9月9日まで展示中):国立科学博物館所蔵

これが恐竜だ！



恐竜には大きく分けて鳥盤類と竜盤類のグループがあります。これらの二つは、骨盤の恥骨の向きによって区別されています。現生鳥類は獣脚類と同じ祖先から進化してきたと考えられています。鳥盤類や鳥脚類というグループには「鳥」という漢字が入っていますが、系統的には鳥類とは全く関係がありません。獣脚類も「獣」とはついていますが、哺乳類とは関係がありません。

昔は翼が多かった！



2003年に中国で見つかり新種として記載された「マイクロプトル・グイ」には後肢にも風切羽が付き、合計4枚の翼を持っていました。現生鳥類では四枚翼の鳥は存在しておらず、全て二枚翼の種ばかりです。

恐竜はどんな色？



羽毛の化石を調べた結果、色素「メラニン」が見つかりました。ユーメラニンとは黒や灰、フェオメラニンとは赤や黄を示します。今のところ現生鳥類の持つ構造色(光の干渉によって見える色)や、ニワトリのトサカにあるような皮膚の色があったかどうかはまだわかりません。

意外と多い恐竜の産卵数



白亜紀の恐竜は生態系ピラミッドの上位の生物であり、下位の生物に比べると死亡率は低かったと考えられますが、意外と多産な種もあり、20~30個の卵が入った巣も見つっています。これは肉食恐竜などの捕食者によって死亡率が高かったことによるものと考えられています。

庄内の動物情報コーナー

豪雨によって甚大な被害が出た地域の皆さん、ころよりお見舞い申し上げます。多くの鳥類にとっても繁殖の時期を迎えています。こうした気象が影響を及ぼしていなければと思います。山形ではカッコウの飛来が平年よりだいぶ遅かったようです。庄内ではトンボ類が早めに出現している印象を受けます。他の地域でも何か変化がありましたらお知らせください。情報や写真の投稿は moukin@raptor-c.comまで。



2018/4/16「オオルリ」酒田市
オオルリを撮影してくれました。ホント、キレイな青ですね～。木に対して垂直に止まるんですねえ～。撮影：庄司和樹様



2018/5/7「ヒゴスミレ」酒田市
山形県のレッドデータブックで絶滅危惧の危険度が高いとされているスミレの仲間です。酒田市にわずかに群落があることを報告していただきました。撮影：齋藤利孝様



2018/5/16「コアシサシ」酒田市
絶滅が心配されるコアシサシが今年も最上川河口にやってきてくれました。繁殖成功するといいですね！
撮影：たちん様



2018/6/28「コサメビタキ幼鳥」酒田市
こんな特徴の小鳥を見つけたらコサメビタキの幼鳥ですよ！鳥の成幼って本当に難しいですね。幼鳥図鑑が欲しいところです。
撮影：渡会様



2018/6/29「トラフズク」酒田市
山形県がサクランボの収穫シーズンになると巣立ちを迎えます。この一家は4羽いたそうです。こちらは無事繁殖できて良かったですね！撮影：佐原弘樹様



2018/7/5「オオミズナギドリ」酒田市
市内の観光施設で飛べなくなっていたところを保護されました。海が荒れていたのでもうしようもなかったんですね。
撮影：酒田市環境衛生課



番外編2018/5/16「ミスゴ」秋田県大館市
「よし！上がるか！」露天風呂から上がる鳥ではなく、ミスゴダイブをした瞬間の様子。狩りの成否はいかに！
撮影：山島猛様



番外編 2018/5/26「ハヤブサ若鳥」
神奈川県大磯町
ハヤブサの若鳥がアオバトを狙って海岸に来たそうですが、狩りがお上手ではなく失敗したようです。ハヤブサ「なぜだ！」アオバト「坊やだからさ。」撮影：こまたん



番外編 2018/5/26「アオバト」
神奈川県大磯町
なんと！この春の大磯にはアオバトの瞬間最大飛来数が579羽という大記録になったそうです！日本全国のイヌワシに匹敵！すご！撮影：こまたん

Interview

突撃! 鳥海イヌワシみらい館 9



昆虫写真家 高嶋清明さんに聞く

ミヤマクワガタ
撮影/高嶋清明

夏といえば昆虫! フィールドではもちろんのこと、
図鑑や本で昆虫を見る機会も多いと思います。
今回は本や映像で昆虫の生態をお伝えしている、
鶴岡市在住の昆虫写真家高嶋清明さんにお話を伺ってきました。

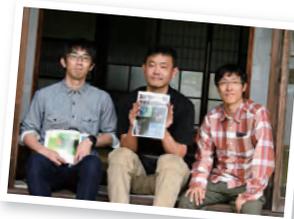
—— 山形市出身ということですが、
子供時代はどのような子供でしたか?
また写真との出会いはどのような
ものだったのでしょうか?

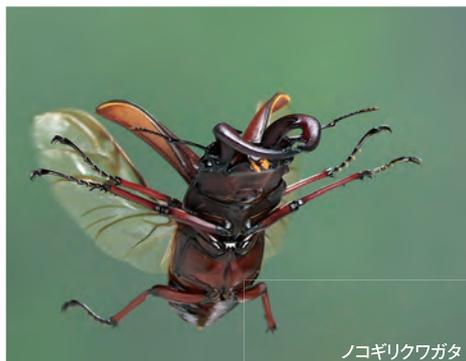
生き物を飼うのが好きな子供でした。
アリやアオムシなどの虫が多かったです。
カラーの生態写真がいっぱいだった図鑑を繰り返し見ていて、
自分も図鑑のような写真を撮りたいと思いました。
一眼レフとマクロレンズが必要と知って、
カタログを集めてはカメラの勉強をしていました。
小遣いやお年玉を貯めて、小6の時に念願のカメラを手に入れました。



高嶋清明 ● たかしま きよあき

1969年山形市出身。昆虫写真家海野和男氏に師事し、2008年に独立。各地で写真展を行う傍らNHK「ダーウィンが来た!」などの映像撮影にも参加。著書に「鳴く虫の科学(誠文堂新光社)」「里山にすむクロスズメバチ(偕成社)」など。ブログ「路傍の虫たち」





ノギリクワガタ
シロスジカミキリ



セイヨウミツバチ



カンタン



シロスジカミキリ



ハンミョウ



カブトムシ

※昆虫の撮影はすべて高嶋清明

—— 昆虫写真家の海野和男さんに弟子入りをしています。どのようなきっかけですか？

大学の頃に思い切って海野さんに手紙を書きました。昆虫写真家になるにはどうしたらいいのかと。そうしたら、ちょうど長野県の小諸にアトリエを作っていた時で、手伝いに来てみる？ということになりました。

—— 写真以外にも、動画の撮影や音の録音などにも精力的に携わっていますが、最近特に力を注いでいることは何でしょうか？

鳴く虫の取材です。スーパースロー動画を音声同録で記録して、左右の前翅をどうすり合わせて音を出しているのか解明しようと思っています。そんなことをやっている、動画や録音技術も必要になってきます。

—— 東京などで個展を開催したり、博物館等の昆虫展でメイングラフィックを担当されていますが反応はいかがですか？

本当に虫好きな人とたくさん会う

事ができます。手応えを感じる事ができて楽しいです。

—— 全国を飛び回っている高嶋さんですが、環境の変化、昆虫の変化など感じることはありませんか？

庄内の里山に特に感じますが、いい谷だなと入ってみるとスギ林でがっかりする事が多いです。スギ林以前は確実にいい環境だったことが想像できて、とても残念になることが多いです。田んぼも徹底管理されていて、生物相が貧弱。人里離れると自然度は高いですが、里山環境は関東地方の方が豊かで、虫もそれを食べるクモなども多いように感じますね。

—— 高嶋さんの今後の目標は何でしょうか？

日本人は虫の音を楽しむ文化があり…と言われていますが、それはきっと昔のこと。今、虫の音に関心のある日本人は実際にはすごく少ないと感じます。鳴く虫文化を高めたいです。

—— 昆虫少年少女に向けて、一言お願いします。



昆虫を撮影していると物理の知識が必要になることが多くあります。例えば鳴く虫の音域や飛ぶ虫の羽の羽ばたきなどを理解するうえで重要です。自分は若い頃、物理が苦手で避けていたことを、今、とても後悔しています。物理に限らず、広く勉強しておくことがやっぱり大事です。

高嶋さんからお話を聞く中で、身近でありながら実はまだ謎の多い昆虫たちに、真正面から挑み真実を伝えるという強い意志を感じました。映像を通して私たちに新しい発見や気づきをもたらしてくれることに期待しています。そしてそれをきっかけに自然に興味を持ってほしいと思いました。

Report

鳥海 イヌワシレポート

5月24日(木)に東京ドームでプロ野球・東北楽天ゴールデンイーグルスVSオリックス・バファローズの試合がありました。楽天イーグルスの球団マスコットであるクラッチくんとクラッチーナちゃん、スイッチくんの仲間として、鳥海イヌワシみらい館のマスコットキャラクターであるワッシーくんにご協力要請があり、群馬県で赤谷の森プロジェクトで活動している(公財)日本自然保護協会の皆

さんと一緒にイヌワシについて普及啓発イベントをしようということになりました。当館からはイヌワシの普及啓発展示とお鷹ぽっぽ(山形県米沢市に伝わる木彫工芸品)の絵付け体験のブースを出展しました。お鷹ぽっぽの絵付けには子供たちだけでなく大人も参加してくれました。展示では人工林の伐採について体験するコーナーや、イヌワシの視力体験などに興味を持ってくれたようです。

試合のイニング間では、クラッチくんと共にワッシーくんが東京ドームのグラウンドに立ち、約5万人の観客に向けてイヌワシの保護を訴えました。大観衆に迎えられ、ワッシーくんも大役を果たすことができご満悦のようです。

イベント開催に当たって尽力いただいた楽天グループの皆さん、日本自然保護協会の皆さん、当日ブースに足を運んでいただいた皆さんありがとうございました。こうしたイベントを通して、イヌワシと保護活動の取り組みを知っていただき応援していただくと幸いです。(この日の観戦チケットの売り上げの一部は、イヌワシの保護活動に寄付されました。)

ワッシーくん 東京ドームに立つ!



楽天イーグルスの球団マスコットのクラッチくんと一緒に!



スタジアムはものすごい熱気に包まれています!



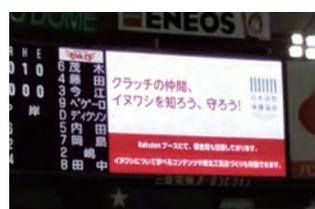
ワッシーくんの勇姿



電光掲示板にも登場!



ええっ! イヌワシってこんなに目が良いの?



クラッチの仲間、イヌワシを知ろう、守ろう!



(公財)日本自然保護協会の皆さんとブース前にて記念撮影

「楽天の森プロジェクトとは？」

プロ野球球団の東北楽天ゴールデンイーグルスのチーム名「ゴールデンイーグル」は絶滅危惧種イヌワシの英名です。現在イヌワシの繁殖成功率が低下している一因として、森林の放棄が挙げられます。翼開長2mに達するイヌワシは、人間によって植林され、込み合った杉林の中に入っていくことができなくなってしまった上に、最もエサを必要とする繁殖期にあたる冬でも落葉しない杉によって視界が遮られ、エサを探すことすらできない状況です。また日光

が遮られることで暗くなった森は植生が単調になり、ノウサギたちのエサとなる植物を生産できず、生物の少ない森へと変貌してしまいました。そこで楽天は、楽天イーグルスの球団マスコット、クラッチくんとクラッチーナちゃん、スイッチくんの仲間であるイヌワシを守ろうと立ち上がり、「楽天の森プロジェクト」を発足させました。山形県では楽天株式会社と山形大学と山形県で三者協定を結び、鳥海山麓でイヌワシのための森づくり活動と研究を進めてきました。



初めて子供を抱くクラッチくん「イヌワシの赤ちゃんって意外と重いんだな」



お鷹ぼっぼの絵付け体験ブースにて



ワッシーくん登場!



イヌワシの普及啓発コーナーにクラッチくん参上!

2017年10月に、鳥海イヌワシみらい館で開催した「イヌワシに見る庄内のみらい」と題したイヌワシの観察会イベントにて、楽天株式会社コーポレートカルチャーディビジョンサステナビリティ推進部の眞々部貴之さん、ジュリアン・ボワッソーさんと、「楽天の森プロジェクト」で調査が行われている鳥海山麓^{うっべい}施業地を視察しました。鬱閉した人工林の中にギャップを作り、イヌワシなどの猛禽類の他、エサ動物たちや下層植生についての調査研究が行われています。



イベント開催報告

○クラフト体験イベント「ドリームキャッチャー作り」

5月3日(木)～6日(日)までのゴールデンウィーク期間中に昨年の夏に開催して好評だった「ドリームキャッチャー作り」を開催しました。鳥の羽を使ったアメリカのネイティブインディアンに伝わるお守りで、輪のサイズやひもの色、ビーズの種類などを選ぶことで、オリジナルのお守りを作ることができます。鳥と人間の文化や、羽の作りについて理解してもらえたと思います。今年も多くの子供たちが体験してってくれました。来場してくれた皆さんありがとうございました。



○月山ビジターセンター共催「春を感じる囀り観察会」

4月29日(日)に鶴岡市大山公園をフィールドにして、「春を感じる囀り観察会」を月山ビジターセンターとの共催で開催しました。講師はネイチャーカメラマンの太田威さんです。

フィールドの大山地域は江戸時代に天領(幕府の直轄地)とされ、厳しく木の伐採などが制限されていたことで、現代まで比較的豊かな環境が残されている場所です。この日は森の中で、オオルリやコマドリ、サンショウクイなどの小鳥たちが美しいハーモニーを聞かせてくれました。案内いただいた太田さん、月山ビジターセンターパークボランティアの皆さん、参加者の皆さんありがとうございました。

当日見られた鳥：オオタカ、カワセミ、オオルリ、コマドリ、キビタキ、シジュウカラ、ヒガラ、ホオジロ、オオハクチョウ、サンショウクイ、クロツグミ、センダイムシクイ、ヤブサメ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、コガモ、オオバン、カンムリカイツブリ、ハシビロガモ、カルガモ、ツバメ、ツツドリ、イカル、メジロ、ウグイス、アオサギ、キツツキ、カワラヒワ 計28種



○地域おこし協力隊共催「いきものマスターと一緒に地域探検」

5月12日(土)は「いきものマスターと一緒に地域探検」と題して酒田市日向地区の地域おこし協力隊と観察会を開催しました。講師は希少種保護増殖等専門員の長船裕紀です。

当日は田んぼの用水路など、身近な環境にどんな生き物がいるのかを、実際に参加者から網ですくって観察してもらいました。地域に生息しているドジョウの仲間が数種類いることなど参加者も初めて知る身近な自然に驚いていました。お昼は山で栽培される代表的な食物として「そば」をいただきました。地域おこし協力隊の庄司和樹さん、そば職人の小松幸雄さん、そして観察会にご参加いただいた皆さんありがとうございました。



ホトケドジョウを解説する長船専門員

この日見られた生物：ハクセキレイ、サシバ、ノスリ、ヒヨドリ、ハイタカ、アオサギ、チュウサギ、クマタカ、トビ、ハシボソガラス、ドジョウ、ホトケドジョウ、シマドジョウ、アブラハヤ、トノサマガエル、アカハライモリ、アマガエル、クロサンショウウオ、ヤマアカガエル、ツチガエル、クサギカメムシ、キアゲハ、モンシロチョウ、ナナホシテントウ、トビケラ類、コガムシ、ミズスマシ、アメンボ類、ガガンボ類、カワニナ、マルタニシ、ミズズミ類 計32種

イベント情報コーナー

夏休み特別企画展示「鳥類施設 無謀にも 恐竜を飾る」

鳥類学者、川上和人氏の著書「鳥類学者無謀にも恐竜を語る（技術論評社）」を実際に資料で見ることができる展示会です。面白おかしく恐竜と鳥の関係について展示しています。

期 日 平成30年6月16日（土）～9月9日（日）
 時 間 9：00～16：30
 会 場 鳥海イヌワシみらい館展示室
 入 場 無料
 主 催 猛禽類保護センター活用協議会
 協 力 国立科学博物館、群馬県立自然史博物館
 神流町恐竜センター、いわき市石炭化石館ほるる
 ミュージアムパーク茨城県自然博物館、
 福井県立恐竜博物館、科学技術振興機構（JST）
 特別協力 国府田良樹（ミュージアムパーク茨城県自然博物館名誉学芸員）
 川上和人（森林総合研究所）



「夏休み体験プログラム」

期 日 平成30年7月23日（月）～8月19日（日）
 時 間 9：00～16：00
 場 所 鳥海イヌワシみらい館 特設会場
 内 容 1週目「お鷹ぼっぼの絵付け」
 2週目「ドリームキャッチャー作り」
 3週目「エコバッグ作り」
 4週目「蜜ろうそく作り」
 期間中毎日「化石の消しゴム作り」
 材 料 費 お鷹ぼっぼ・・・500円
 ドリームキャッチャー・・・250円
 エコバッグ・・・200円
 蜜ろうそく・・・400円
 化石消しゴム・・・100円

鳥海イヌワシみらい館
 (猛禽類保護センター)

夏休み体験プログラム

平成30年7月23日（月）～8月19日（日） 9：00～16：00

同時開催中の「鳥類施設、無謀にも恐竜を飾る」に合わせ「化石の消しゴムづくり」を開催するよ！遊びに来ね！



開催期間	プログラム内容	
1週目 7月23日（月）～29日（日）	お鷹ぼっぼの絵付け 猛禽類の特徴を学びます。 材料費：500円	化石の消しゴムづくり 材料費：100円 アンモナイトや三葉虫の化石をもとにカラフルな化石消しゴムを作ります。
2週目 7月30日（月）～8月5日（日）	鳥の羽でドリームキャッチャーを作ろう！ 材料費：（大）250円（小）200円	
3週目 8月6日（月）～12日（日）	エコバッグを作ろう！ 材料費：200円	
4週目 8月13日（月）～19日（日）	蜜ろうそくを作ろう！ 材料費：400円	

お申込み 不要（当日会場へ直接お越しください。） 折り紙、ぬり絵のコーナーも用意しておりますので、小さいお子様も一緒にご来場ください。

鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会共催観察会「秋の渡りを見よう！」

期 日 平成30年9月9日（日）
 時 間 9：00～14：00
 会 場 鳥海山鉾立登山口を予定
 参加費 一人300円（保険・資料代）
 募集定員 先着20名
 持ち物 双眼鏡（貸出可）、昼食、飲み物
 募集期間 8月16日（木）～9月6日（木）
 主 催 猛禽類保護センター活用協議会
 共 催 鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会



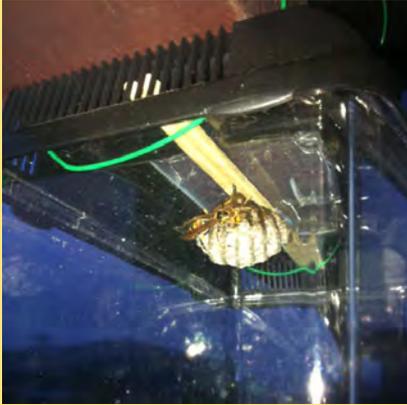
ハチクマやノスリなど、秋に南下する猛禽類を中心に標高1000mの眺望から観察します。

上記イベントに関するお申込み・お問合せ
 鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）
 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
 E-mail:moukin@raptor-c.com



蜂蜜の森から 第5回「セグロアシナガバチ移住成功！」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第5回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



翌日ケースの底を外して
移住完了！



先月、セグロアシナガバチの駆除を頼まれました。アシナガバチ類では最大級で、よくズメバチと間違えられるハチです。まだ女王バチ一匹なので、もう一度別の場所で人生(虫生?)をやり直してもらおうと生け捕りにしました。

落とした巣を見ると、すでに幼虫が5~6匹生まれていました。ビニール袋の中で打ちひしがれる母バチの姿を見ていたら、愛情がわいてしまい、なんとか巣ごとうちのベランダに移住させたいと思いました。

しかし、巣を移設しても袋の女王バチを放した時に、そのまま元の場所に戻ろうと飛び去りそうです。あれこれ考えて、ついにいいアイデアを思いつきました。

まず、割り箸に巣の根本をはさんで固定しました。そして、子供たちが使っていたプラスチックのミニ水槽のふたに貼り付け、水槽にセットし、そこに女王バチを入れました。すると、すぐに巣を認識してくっついてくれました。そのまま一晩過ごしてもらいました。

そして、翌朝夜明け前、あらかじめ水槽にセットしていた針金でベランダの手すりの木部に固定、静かに水槽を外してみました。パニックになり巣を放棄するかと思い

ましたが、さすがお母さん、じっと巣にへばりついて子供たちを守ってくれました。大成功です！

現在はやっと5~6匹の家族になりました。来月には数十匹の家族になります。きっと農薬のない安全な私の畑でたくさんのイモムシ類を捕ってくれることでしょう。

そういえば、一匹の働きバチはいったい一日で何匹のイモムシを捕まえられるのでしょうか。私にはわかりません。でもたとえば30匹の働きバチが一日2匹ずつ捕まえたとしたら、毎日60匹。一週間では420匹にもなります。

これは、めでたしめでたしです(^)/



安藤竜二

1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうソク製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。日本エコミュージアム研究会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』(朝日町エコミュージアム研究会発行)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

タルボサウルスの重量500kg！これが一番無謀でした！(本)

事務局

玄関のドアが開くと…。想像の世界が広がります。パネルの解説もおもしろいです。(村)

希少種保護増殖等専門員

県内でのイヌワシ調査にて。イヌワシの巣に付着した糞の正体は！？ハヤブサでした！(長)

鳥海南麓自然保護官

今後も「facebook」を活用して情報発信していきますので、皆さんぜひ「いいね」して下さい。(澤)

編集後記 & 施設情報

鳥海イヌワシみらい館 7月~9月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・なし

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

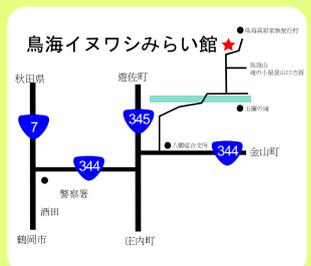
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.27 夏号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)